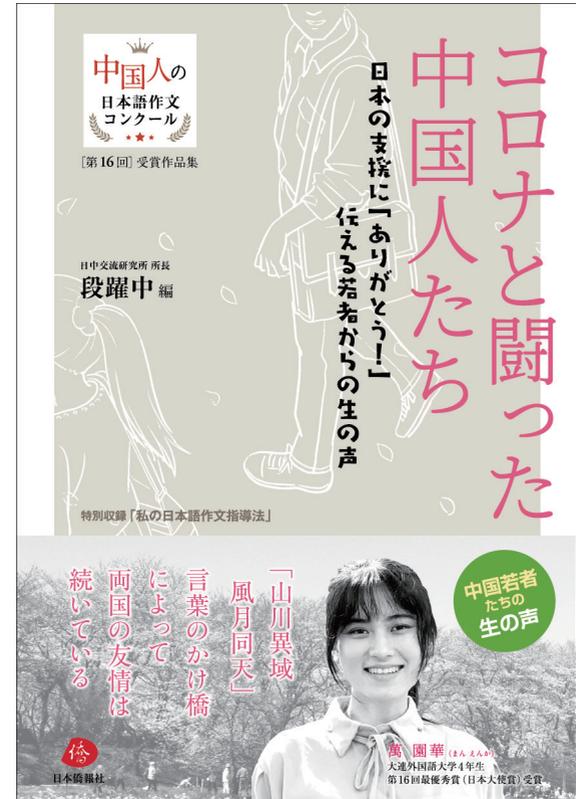




特別収録

私の日本語作文指導法

- 小椋 学 南京郵電大学外国語学院
- 郭 献尹 淮陰師範学院
- 丸山 雅美 福州外語外貿学院
- 半场 憲二 四川大学錦江学院
- 川内 浩一 大連外国語大学日本語学院



写真を撮るように 作文を書く

— 作文を書くヒント —

南京郵電大学外国語学院 小棕学

「作文を書いてください」。先生からそう言われる度に、「また作文か。嫌だな」と思いながら書いたことはないだろうか。そして、「書くことがないし、何を書いたらいいか分からないし、作文を書くセンスもない」と言いながら、嫌いな作文をさっさと書き終えて、好きなことをしたいと考えている人もいるだろう。作文の内容が良くないことは本人が一番よく分かっているが、どうしたらよいか分からない。「作文の書き方」は作文が得意な人の視点で書かれていて、読んでも作文を書くコツが分からなかったという人もいるかもしれない。

実は私も作文が苦手だった。だからこそ、作文が苦手な人の気持ちがよく分かる。そこで、今回は作文が苦手な人に作文を書くヒントを紹介したいと思う。作文が苦手な人は、作文のことを考えるのも嫌だと思うので、み

なさんにとって身近な写真と関連づけながら文章を書くことにした。肩の力を抜いて、リラックスしながら読んでもらいたい。そして、もし何か新しい発見があったら、作文を書く時に参考にしてもらいたい。

私は五年間南京郵電大学で作文指導を行ってきた。昨年からは「中国人の日本語作文コンクール」の指導も行っている。これまで数多くの作文を読み、良いと思ったところは、私が作文を書く時にも参考にしている。この過程で得られた作文を書くコツは少なくない。作文を書くコツが明確になっていくにつれて、だんだんあることに気づきはじめてきた。それは作文と写真には共通点が多いということだ。

以前、私は写真家の小林宗正先生から写真の撮り方を教えていただいたことがあった。三日間にわたり、プロのカメラマンにマンツーマンで指導していただいたことは私にとって、とても貴重な経験になった。今振り返ってみると、その時教えていただいたことは、写真を撮る時だけでなく、作文を書く時にも参考になっている。

その時、小林先生は「この写真のテーマは何ですか」とおっしゃった。私は何も考えず無意識に写真を撮っていただけであり、そもそもテーマなんて考えたこともなかった。しかし、写真を見る人に何を伝えたいのか明確にしなければ、写真コンテストで選ばれるような写真にはならない。これは作文も同じである。何も考えずにただ書いただけなら、作文コンクールで選ばれる作文にはならないだろう。そこで、まずテーマを意識して、作文を書く目的を考えることが必要だ。

次に、目の前に撮りたい建物があった時、あなたはどのように写真を撮るだろうか。その場で写真を一枚撮って立ち去るだろうか。それとも、

建物の周囲を移動しながら他にも写真を撮るのに最適な場所はないか探すだろうか。小林先生は、「自分で動きながら良い撮影ポイントを探すことが大事だ」とおっしゃった。同じ建物を撮るにしても、どの位置で撮るか、どの角度で撮るか、どの高さで撮るかによって、その建物の見え方が変わるからだ。また、写真の中に何をを入れるかによって、その建物の印象も変わってくる。周辺の環境の良さを伝えたいのであれば、花や木、山などが入るように撮るし、賑わっている様子を見せたいなら人が入るように撮るだろう。作文の場合も同じである。原稿用紙に何を書いて何を書かないのか。どこに着目して書くのか。読者にどのような印象を与えたいのかを考えなければならぬ。なぜなら、同じ体験をしても、どこに着目して書くのかによって、読者に与える印象が変わるからだ。

それから、自分が撮った写真と友達が撮った写真を見比べたことはないだろうか。一緒に旅行して、同じ建物を撮ったのにもかかわらず、写真の印象が全く違うということもあるだろう。写真を撮るのが上手な人は、プロのカメラマンの写真をよく見て、どうしたらそのような





写真が撮れるのかよく考えている。そして、写真を撮る時にその写真を参考にしている。例えば、観光地に行く前には、インターネットでその観光地の良い写真を検索して、どの位置でどんな写真を撮るのか具体的に計画を立てている。

また、人や車など動いているものを撮る時には、どの位置に来た時に写真を撮るのか決めている。だからこそ、よい写真が撮れるのだ。大事なことはお手本になるものを探して、どうすればそのようにできるのかを考えることだ。作文が苦手な人はそれができていない。そこで、お勧めしたいのが「中国人の日本語作文コンクール」の受賞作品集を読むことだ。この作品集には中国人

の学生が書いた日本語の作文が数多く掲載されている。そこで、まず自分が書きたいテーマの作文を探して読んでみよう。そして、作文の構成はどうなっているのか、参考にできるところはないか、しっかり分析してみよう。そうすることによって、あなたの作文能力は少しずつ向上するだろう。

ところで、私たちはWeChatなどSNSを通して、毎日たくさんさんの写真を見ている。その中で特に人気があるのは人が写っている写真だ。SNSのユーザは食べ物や風景の写真よりも、その人が何をしているのかが分かる写真を見たがっている。そのため、そういった自分の写真をたくさん掲載している人はフォロワー数が比較的多い。作文もそうである。読者は筆者の考えや性格などを知りたいがっている。一般論やニュースで聞いたこと、インターネットで調べたことは、既にみんなが知っていることであり、新しい発見がなく、筆者のことも分からないので読んでも面白くない。作文はある程度自己開示することが必要だ。自分のことを書きたくないという人は作文を書くのに向いていない。また、自分の良いところだけを見せようとしてもうまくいかない。作文を書く

ているのだ。

写真を撮るように作文を書く。この文章がきっかけで、作文に対する認識が変わり、作文に興味を持っていただけになったら嬉しく思う。



小椋学（おぐらまなぶ）

南京郵電大学外国語学院日本語科講師。中国の北京語言大学と韓国の高麗大学での語学留学経験を生かし、楽しくて学習効果の高い日本語授業を目指している。中国人の学生に合った教材作りにも関心があり、オリジナル教材の『学覇日語』は口語編と写作編がある。また、南京の観光地を日本語で紹介したガイドブック『私が薦める南京の観光地』の作成や大学での講演など、日中交流に向けた取り組みも積極的にを行っている。日本語教師歴五年。

のが上手な人は、うまくいかなかったことや失敗したことを乗り越えた過程を書いて読者の共感を得ている。また、「私はよくラーメンを食べます」とは書かず、「私は週に三回、豚骨ラーメンを食べます」のように、曖昧な言葉を使わないで具体的に書き、読者が筆者の嗜好や生活などをイメージできるように工夫している。ピンポイントした写真のようではなく、細部までくつきり見える写真のように、内容が分かりやすく、読者の関心を引き付けられる文章を書かなければならない。

三日間の研修を終えた時、私は「撮影の技術を身につけるために、何か良い本をご紹介いただけませんか。」と小林先生にお願いして。すると、「本を参考にすると、変な癖がついてしまうので、あまりお勧めしない。とにかく写真をたくさん撮って、後でちゃんと写真が撮れているのか振り返り、どうしたら良い写真が撮れるの自分で考えることが重要だ。」とおっしゃった。

安易に人の真似をして満足するのではなく、自分で考え、試行錯誤しながら撮影の技術を身につけてこそ、その人ならではの魅力ある写真が撮れるようになることに私は気づいた。写真も作文もオリジナリティが求められ

忘れがたい貴重な作文の指導経験

淮陰師範学院 郭猷尹

私は去年の九月に台湾から江蘇省淮安市に赴任し、今初めて学生に「中国人の日本語作文コンクール」の指導をしました。これまでの約十年の指導対象は台湾で育った学生と社会人であり、淮安の生活環境と異なったものでした。台湾には日系企業や日本語学校が多く、日本料理店もたくさんあります。テレビをつければ日本の番組がいつでも見られます。台湾には日本語や日本文化に日常的に接触できる環境があります。それに対し、淮安の学生はそのような恵まれた日本語環境がないため、教科書に出た日本についての話を紹介するたびに、昔日本と台湾で撮った写真や資料を見せなければなりません。思いつかれるのは、今年の五月末に外国語学部の子生向けに「和食文化」について遠隔講演をしたことです。さいわい当時は冬休みに台湾に戻ることができたので、和食

の写真を自分で何枚も撮ったり、友人からもらったりすることができました。淮安の学生に和食文化をよりわかりやすく理解してもらうため、資料を集めるだけで三週間もかかりました。例えば台湾なら「回転寿司」で食べた経験のある学生が多いので、言葉だけ教えれば済みませんが、淮安の学生には写真や動画を見せないとわかりません。言うまでもなく、今回のような日本的な思考と書き方を兼ねた作文指導は、台湾での指導より難しいと実感しています。

当学日本語学科では、作文コンクールに三年生の必須参加、二年生と一年生の自由参加を決めました。副学部長の指示により、QQでグループ連絡網を作りました。また指導をスムーズに行うため、私を含めた指導教官七名と学生六十四名がお互い話し合い、学生が指導を受けたい教官、および教官が指導したい学生のマッチングを行い、七つのグループに分けました。新型コロナウイルスという大変な時期で、学生も自宅にいた必要があったので、各指導教官に従い遠隔指導を受けました。提出期限も早めに設定し、最終段階に私と学生アシスタントでフォントや形式などのダブルチェックを行いました。このようにし

て、作文コンクールの締め切りまでの二日前までにみんなの作品を整えて副学部長に提出し、副学部長より作文コンクールの事務局にメールしました。このような体験は、私にとっても大変良い勉強になり、チーム活動運営にも慣れることができました。



グループ分けの後、私の担当する学生九名と相談し、指導計画を立てました。締め切りまでは二カ月の余裕がありますが、学生はほかの授業もありますし、私も授業や講演の準備をしなければなりません。本当に使える時間は思ったより多くありませんでした。毎週末土曜日に学生一人一人と一時間程度の討論時間を設けました。各自の作文の独創性を重視し、学生が互いに影響を与えなため、討論や意見交換を禁じました。一週目は学生に今回作文コンクールの「新型コロナウイルスと闘う」に関わる三つのテーマから選択させ、中国語で原稿を書かせました。二週目は学生の考え方を聞き、中国語の原稿にコメントをし、アドバイスしました。六週目に各段落を完成させました。勿論、作文を執筆している最中、学生が悩んでいる時は、いつでも相談に乗りました。指導には様々な問題も出てきました。例えば、語彙や文法の使用に不自然なところがあったほか、諺や報道の引用ばかりで、自分の体験を述べない学生も多かったです。学生自身も新型コロナウイルスによる社会問題の当事者であり、自らの体験を作文に書き入れることが重要です。ある学生は家の家具工場をマスク工場に建て替えて感染拡大防止の貢献の一助

となり、従業員の就労も確保できたことを書きました。別な学生は父親とマスクを買いに行った時、共に列に並んだ見知らぬ市民との会話に触れました。日本が出身地の南京市にマスクだけでなく、たくさん物資を提供したことを感謝し、日本語専攻の自分も大変光栄に思ったと書きました。二人とも異なった体験を述べ、入賞できました。

指導の話題に戻すと、七週目に各学生にもう一度作文の全体をチェックさせました。今の大学に日本人教員がないため、翌週の提出日に間に合うよう、それぞれの日本人の友人に見てもらおうにしました。日本人の友人がいない学生には、私が知り合いの日本人に依頼し、確認してもらいました。最後の週には、指導した学生九人と遠隔反省会を行いました。全員で感想をシェアし、学んだ点や不十分な点などを意見交換しました。さらに、作文を相互にコメントし、相手の長所を見つけ、自分の短所を振り返りました。この八週間の指導を通じて、学生の思考力も作文力も向上したことを実感しています。今回の作文指導を振り返ると、自分も学生も共に成長し、気づきのポイントを得ました。まずチーム活動運営

の方法と段取りを知ったことです。次に、作文の書き方について、新聞記事を取り上げるのももちろん、如何に自分の体験談と結びつけ、作文に溶け込み、読者に強いイメージを残すことも重要だと気づいたことです。最後に、日本語の作文では日本的な思考に基づき表現を完結しなければならぬということです。なお、この指導体験談は丁度台湾から淮安へ戻った時に、隔離ホテルで書いています。今回の作文指導は自分にとって、忘れがたい貴重な経験となります。作文コンクールの終了に当たり、このような機会をいただいた関係者の方に感謝を申し上げますとともに、新型コロナウイルスが早く終息することを願います。



郭猷尹（かくけんいん）
台湾東呉大学日本語文学系文学博士、日本福岡県柳川市観光大使。
台湾清華大学、台湾師範大学、台湾海洋大学、台北商業大学、元智大学の非常勤助理教授を経て、現在は江蘇省淮陰師範学院准教授。
日本語教師指導歴十二年。

日本語作文が書けるようになるまでのプロセス

福州外語外貿学院 丸山雅美

中国本土に限らず、日本国内の日本語学校にも数多くの日本語教師が存在します。そして世界中には更に多くの学習者が日本語を学んでいます。漢字圏、準漢字圏、非漢字圏などの環境及び個人の学力差により様々なレベルの日本語学習者がいます。その中でも中国国内の大学で日本語を学ぶ学生は世界中の日本語学習者の中でもトップレベルにある学習者集団と言っても過言ではないでしょう。当然教授方法も彼らに適した方法を取らなければなりません。

以前は大学一年生の入学時にはほぼ全員入門レベルでしたが、昨今大学入学試験の外国語科目でも日本語を選択する受験生が増加したため、入学時においても日本語の学力差が生じています。上級学年に至るとクラス内の学生間の学力差は著しく広がり、遍く網羅する同一性の授業は極めて困難になります。本来は習熟度

別にクラス編成し、レベルに応じて学習していくのが理想ですが、諸般の事情によりそれは不可能です。日本や語学に関心ある者や将来の設計を描いている者はますます勉強し、そうでない者は単位を落とさぬ程度の勉強しかなくなりません。教師にとってはモチベーションを上げることが最重要課題なのかもしれません。アニメ、ドラマ、音楽などのサブカルチャーによる日本語のソフトウェアは中国人にとっても非常に魅力的で、日本語学習の動機付けにも繋がります。また日本語を習得することによって就職等将来の人生における優位性もあります。これらのことは皆理解していますので、日本語教師は学習の継続性を説いていかなければなりません。

日本語学習者にとって日本語の能力を証明する日本語能力試験の合格証は最強のツールです。日本語専攻の学生はそれを目標に勉強しています。しかし日本語能力試験に合格するためには日本語能力試験の対策通りに勉強していかなければなりません。いかに重要なことだけにインプットしていくかが可否の鍵です。このためだけにエネルギーを注ぎすぎると、ややもすれば日本語の魅力を失いがちです。バランスを考えて総合的に日本語を教



責任をもって編纂した正規の辞書に比べると例文が著しく限定的です。語彙の中にある多くの意味を選択するにもどれを選んでよいか判断はできません。つまり文章を正確に翻訳することができません。無意識のうち一番目の意味を選んでいきます。多くの無料の翻訳ソフトも誤った意味を選択し誤訳されている場合が多くあります。語学学習に王道はありません。やはり一歩ずつ歩んで語学的感性を磨いて行く以外方法はありません。

入門当初は会話を中心とした口語体から学び始め、単語量や基本フレーズを増やしていきます。そして大学二年生の後半か大学三年生の前半あたりから作文の練習をし始めます。日本語は中国語と同じく言文不一致の言語です。つまり同じ意味でも口語と文語では表現方法が異なります。これまで習ってきた単語や語調だけでは作文は書くことはできません。更に日本のアニメ・ドラマ・歌謡曲から覚えた語彙は作文にはあまり適していません。アニメやドラマの台詞、歌謡曲の歌詞に気に入った文句があっても、そのまま使用することはできません。これはほとんど口語体です。作文を書くには文語体の文章を多く読んでいく必要があります。

育していく必要があります。そのためには中国人教師との連携が不可欠です。試験対策は主に中国人教師の指導により学習計画を立てて勉強し、日本人教師は母語干渉により理解が難しい表現の説明ぐらいいしか関わることがありません。しかし「日本語会話」や「日本語作文」、これらに応用した「ビジネス日本語」は日本人教師が専ら担当します。日本語をアウトプットする楽しさを伝えるのはネイティブの役割です。この時は苦手意識を作らないように正していくことが重要です。学力だけでなく性格も鑑みて語学指導しなければなりません。

現代はインターネット社会で、語学を学習するには非常に便利な世の中です。私が中国語を習っていた時代と比較することができません。教材も非常に充実しています。語学学習の環境も羨ましいほど発展しています。しかし便利さの影に隠れ落とし穴も多数あります。まず大きくて深い落とし穴はネット上にある無料の翻訳ソフトです。これに嵌ると、語学力の向上は不可能です。実力不相応に通訳や翻訳はできません。苦しんでもがく経験があつてこそ語学力は身につけていきます。またスマホのアプリにある簡易辞書にも要注意です。著名な学者が

作文はそれぞれの用途、目的に応じて書かなければなりません。そのためには読者は誰なのか、作文の読者に何を伝えたいのかを考えなければなりません。その後、作文に適した文体を選び、文中はその文体を統一して書き続けます。卒業論文の日本語摘要部分は学術論文用の文体「だ・である調」で統一し、客観的に理論を学術的に論じなければなりません。一人称や「です・ます調」の文体も多く見られるので、その都度訂正していきます。感想文やテーマを設題した作文の読者はそのテーマに関心を持った不特定多数の愛好者が多いので、読者の身になって作文を書かせます。必然的に「です・ます調」の文体を多く用いるようになります。作文を書き上げた後の校訂は更に重要です。主部と述部で意味がねじれてないか、文章構成の中で流れが逆転していないか等々考えさせます。助詞の使い方等文法上の誤りや簡体字を使つた漢字は教師が訂正しなければなりません。また同形異義語、中国語的思考による日本語に不適切な表現方法など母語干渉による誤りの訂正も教師による指導が必要です。特に母語干渉による作文の添削は日本人教師に求められる大きな役割です。

作文の上達はとにかく多くの本を読むことです。日本のアニメ・映画・ドラマ・音楽に興味を持ち、日本語の世界に足を踏み入れてくれたことは日本人教師として非常に嬉しく感じます。更に一歩前に進み日本の文学作品を原文で読んでいくようになれば、確実に作文のレベルは上がります。今後、一人でも多くの学生が文学作品にも興味を持ち、更に奥の深い日本語の世界へ足を踏み入れていくことを望んでいます。



丸山雅美（まるやま まさみ）

佛敎大学大学院文学研究科東洋史学専攻修士課程修了。埋蔵文化財調査員、中学校社会科敎員、高校地歴科敎員、ビジネスホテルスタッフ、留学申請書類翻訳スタッフ。

二〇一二年新白河国際敎育学院・福州鼓楼大東外語学校（学術交流派遣）、二〇一三年〜現在福州外語外貿学院で日本語敎師として指導にあたる。

私の日本語作文指導法（五）

誤用訂正・回避の指導力

四川大学錦江学院 半場憲二

ある大学の日本語学科主任の先生から「会話授業の敎材が簡単すぎて学生がつまらないという。他の敎材を使うのはどう思うか」と、そんな相談を受け、「敎材は学習者のレベルや学習時間、目的にあわせて選択されるものでは？」と少々訝りながらオンラインでの新学期授業が始まりました。

一、中国人教師の指導力

普段、ぺらぺらと日本語で話をしている日本人であっても、イザそれを簡単に話そうと思えば、特に誤用の説明には窮することがあります。誤用には不注意から生じた程度のミステイクから、意味が理解可能なローカルエラー、理解不能となってしまうグローバルエラーとがあります。日本語教師となる訓練を受け、しっかり敎材研

究をすすめたつもりで、経験があっても、学生の誤用の数々に悩まされるのが実情です。

身近なところでは、学生が「ありがとう」「ありがとう」と言う。「わたし」を「わだし」、「わかった」を「わがだ」とやる。通常の初級会話の授業で理論的・専門的な説明はともかく、日本語として不適切なのですから誤用は誤用として指摘するはずです。日本語との出会いが浅くまだハネムーン期にある学生たち^(注1)。数年勉強した程度で「簡単だ……」と済ませてしまうのは不勉強が過ぎるといえるでしょう。

簡単な会話授業からはじまるから簡単だけで、敎師がティーチャートーク^(注2)を見直し、それまでと異なる発問によって難易度を上げ、中級への道しるべとするのが適切です。先生方は「初級の授業は中級の授業で評価を受ける。会話の授業は作文の授業で評価を受ける」という気概で、学生の敎育指導に取り組んでいただきたいものです。

日本人教師は見ています。作文を書かせれば、学生がどんな「敎育」を受けたのか一目瞭然です。探求心をも



筆者が指導教師を担当し、二等賞を受賞した教え子2名の作品 (第13回受賞作品集より)

ちつつも「私の日本語能力はまだまだです」と知識と謙虚さを兼ね備えた人材の育成を待ち望んでいます。

二、日本人教師の指導力

ある授業が常に緊張感に包まれ、教師が完璧さを求めるあまり、学生たちが委縮してはいけません。「日ごろの授業の中でも、誤りを犯すことは自然なこと。誤用は大切な成長のあかし」というのも異論はありません。しかし、目の前で頻繁に発生しているはずの誤用が放置されれば、本来、指摘を受ければ伸びるはずの日本語能力が、日本語教師によって阻害されてしまう、とも言えるのではないのでしょうか。

話し言葉と書き言葉はその能力が異なると言われますが、それはその道を歩まれる方に研究していただくとして、学校と学生らによる評価を受けながら年に一度の契約更新を続ける現場教師は、あまり悠長なことは言っていられません。初級の会話授業を担当した場合、のちの中級会話や作文授業の何たるかを知っているため、ある時点でフォロナーネットワークを見直し、難易度をあげたりするでしょう。

また作文授業でも教師が本文を読み上げたり、教科書を読ませたり、要点や感想を述べさせたり、要点を書かせたりする場合があります。そのような過程で、日本語が「目標言語」として相応しいかどうか、学生たちに自覚を促すことにもつながられます。

会話が上手のようでも作文を書く段階になると、授業中に拾いきれていなかった誤用が明らかになります。紙面に浮き彫りになった誤用の中に、学生の「成長のあかし」を感じるものがありますが、文字・文法力だけではなく談話・方略的能力なども兼ね備え、それでも「私の日本語能力はまだまだです」と言えるような人材を輩出していきたいものです。

三、教科の枠を超えた指導力

私の作文授業では、学生たちに教科書を読ませます。^(注5)

「教育現場の先生方から面白い話を聞いた。本当の意味での黒板と黒板消しが姿を消しているという。そういえば、ホテルでも会館でも研修会場でも、ホワイトボードの進出が目立つ。」

「ここには使い手中心の発想よりも、作り手の思考が先行していないか。書ければよい、コストダウンになればよい、売ればよい、である。」

「昔の黒板消しには羊毛やボロ綿が入っていた。これが粉を吸い込んでくれる。受講者も使い手も粉を吸い込まなくて済む。世の中消費者重視の時代に入った。一考を要すると考える。」(傍線筆者)

三百字に満たず、通常のスピードで話せば五十秒程度の短い文章の中に合成語がいくつも登場します。学生が読み違えた場合、①発音、②読み仮名、③語形が変化してくることを説明すると思います。

教育+現場||教育現場、研修+会場||研修会場、黒板+消す||黒板消し、「発音が違ってますね」という具合にです。他にもボロ+綿||ぼろ綿(ぼろわた)、①だけではなく他の参考例を用い、腕+時計||腕時計(うでどけい)、粘る+強い||粘り強い(ねばりづよい)等、②や③が変化することを説明するのではないのでしょうか。学生時代は知らないことが多く許されても、何度も誤

用を繰り返す人材を、いつまでも許容してくれる寛容な社会はありません。以前「会話の授業では補いきれない事柄が多く、異文化への理解や相手の言語行動を理解させるのに、作文の授業も例外ではいられない」と述べましたが、誤用訂正・回避のあり方をふくめ、今日その意を強くしています。

四、オンライン授業下の指導力

コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、学校教育ではオンライン授業が続いています。顔をあわせた授業ができず、学生の心身や心理の発達が見えぬまま、ひたすら授業が進んでいきます。

不本意で「日本語」を選ばざるをえなかった学生はともかく、将来の留学や就職など日本語を習得することで、新しい価値を見出そうとする学生がいます。中国には「授人以魚不如授人以漁」という諺がありますが……。

それ以前に忘れてはならないのは「魚の釣り方」を教える人物そのものといえるでしょう。休学モラトリアム、定年退職、前職の体調不良、夫が赴任したためなど、日本語教師を始める事情は様々ですが、日本語を目標言語

を下さいますこと、改めて厚く御礼申し上げます。

(注1) 「異文化ショックモデル・U字曲線モデル」①ハネムーン期(全ての環境が新しく楽観的に異文化に対応することができる時期)のこと。②ショック期(新しい文化に敵対したり、ステレオタイプに捉える時期)、③回復期(言語や環境に慣れ、文化受容がみられてくる時期)、④安定期(異文化適応が完成し、ストレスや心配がない時期)を迎える。

(注2) ティーチャートーク (teachertalk) とは、学習者が理解しやすいように語彙や表現の面をコントロールや調整した話し方をいう。

(注3) 迫田久美子『第二言語習得論』(アルク) 一五頁

(注4) フォリナートーク (foreignertalk) とは、外国人に対してゆっくり、はっきり、わかりやすい語彙や文法を使う話し方をいう。

(注5) 北京大学出版社『日語写作』「黒板に思う」二二頁

(注6) 拙論「国際化と個の時代―重要性を増す作文指導」(第十五回作品集二〇一九年) 二二頁

(注7) 『事例から学ぶ学生相談』(北大路書房) 二九頁 とりわけ「大学における学業の問題は、学力の問題だけでなく、学生の性格や社会性、対人関係の在り方とも深く関わっている」。そのため不本意ながらも学生が日本語学科に所属し、教室活動を共にする間、他の日本語学習者の授業の進度や学業の妨げにならないよう、教師は配慮を求め続けなければならない。オンライン授業の場合、こうした配慮がより強く求められる。

(注8) マザートーク (mothertalk) とは、母親が幼児に用いる言語変種。「ベビートーク」ともいう。

とする学生たちの前では無関係、教師をする動機のほうが重要です。

大学生にマザートークを展開する方、^(注8) 作文授業に自動翻訳を取り入れても良いと主張する方、海外で同僚の足を引っ張り、中傷に勤しむ人物を見してきました。その都度「学生指導の前に、あなたが教育的指導を受けるべきではなからうか」と思ったものです。

こうした人物は、日本人や日本語教育のイメージを損ねるばかりか、日本語教師の地位を低下させ、結果的に学生の成長に悪影響を及ぼします。今後ますます語学教育に特化したサービスが出てくるでしょう。そうしたオンライン授業だからこそ、指導を受けるに値する人物かどうか心の距離を探る。学生たちが視覚や聴覚を研ぎ澄まし、パソコンを凝視しているだろうと思うと、彼らが懸命に紡いだ日本語作文の添削に身が入ります。

おわりに

私の日本語作文指導法といいながら前回に続き、作文指導と周辺事情へと軸足を置いてしまいました。こうして授業や作文の指導法等について振り返る貴重な機会

半場憲二(はんばけんじ)

一九七一年東京都新宿区生まれ。国士館大学政経学部政治学科卒。航空自衛隊自衛官、国会議員秘書、民間企業社長室等を経て、二〇一一年九月から湖北省武漢市・武昌理工大学、二〇一九年九月広東省広州市・広東外語外贸大学南国商学院、二〇二〇年九月四川省眉山市・四川大学锦江学院日本語学科教師。

作文コンクールに応募しよう と思っっている学生のみなさんへ

大連外国語大学日本語学院 川内浩一

一、はじめに

皆さん、こんにちは。大連外国語大学の川内浩一です。今日は作文コンクールに応募しようと思っっているみなさんに、私のささやかなアドバイスを話したいと思っいます。

私が教師になったのは一九八七年ですからもう三十年以上も前のことです。小学校、中学校、高校、大学、大学院など様々な場所で国語、日本語を教えてきました。

八年前からは大連外国語大学で作文の授業を担当して、千人以上の中国の大学生の作文を見てきました。以前大連外国語大学は一学年二十二クラス、一クラス三十六人で、作文の授業を四クラス担当することもありましたから添削が本当にたいへんでした。もう一万篇以上の中国の皆さんの作文を見ていることになるでしょう。そん

な私ですが、二〇一四年からは学生さんと一緒に様々な作文のコンクールに参加しています。日頃の授業や作文コンクールに参加する学生の皆さんの作文を読んで、感じるいろいろなありますので、今日はそれをお話したいと思っいます。

二、「カッコイイ作文」を書かないようにしましょう

作文コンクールが近づくとき「カッコイイ作文」を書いてくる学生さんがいます。どこかの模範作文集に出ていそうな抽象的な美辞麗句が並んだその作文からはそれを書いた学生さんの本当の気持ち、本音がほとんど伝わって来ません。優秀な作文の抽象的な部分だけを真似ても決して良い作文は書けないのです。抽象的なみんなが使う言葉、実感の伴わない比喻や修辭法を多用した作文を読んでいると、たいへんに悲しい気持ちになります。そうした作文には読む人に対する誠実さや、作文を書くことに対する真摯な態度が欠けているからだと思います。厳しい言い方をすると「カッコイイ作文」を書くこととして書いた作文は「カッコ悪い作文」になっているのです。

三、「真心話」を書きましょう

学生さんが書いてきた作文を読んで「お！これは！」と思うことがあります。作文指導をしていて一番嬉しい瞬間です。確かに文法的な間違えや表現が未熟な部分があるのですが、その作文からは「本気」「本音」「真心話」が伝わって来るのです。誠実に真摯な態度で自分の感じたこと、思っしたこと、考えたことを伝えようという気持ちを感じられます。なんとなく原稿用紙に向かってスラスラと書いたのではなく、よく考え、悩んで書いたという作文執筆の過程が感じられるのです。

第一稿では「真心話」が感じられない作文でも、学生さんと一緒に色々な事を話し合っってから第二稿を書いてもらおうと、俄然、作文が光っることがあります。後で、学生さんに聞いてみると私と話し合っした後、何日間も悩んで、苦しんで書いたことが多いです。どんなに悩んで苦しんでも、自分が納得のいく一本の作文が完成した時の気持ちは格別なものだそうです。

ですから、作文を書く時には自分が書きたいことは何なのか、自分の「真心話」は何なのかをしっかりと自分自身で掴んでから書き出してほしいと思っいます。自分の書

きたいことは何か、それを読み手に伝えるためにはどのように書けばよいか、それを真剣に悩んでほしいと思っいます。悩んでも答えが出ない場合は、友達や先生と話し合っってみましょう。しかし、それでも自分の「真心話」が掴めない場合はどうしたらよいでしょうか。

四、考えて調べてまた考えましょう

いくら考えても自分の「真心話」が掴めない、まとまらないという時は、調べましょう。ネットでも図書館でもいいです。自分が考えていることに関係したことを徹底的に調べましょう。私たちの視野は狭いものです。狭い範囲で悩んでいるよりも調べて新しいことに触れましょう。例えば今回のコンクールで私が指導した学生の中で「山川異域、風月同天」という言葉の意味をしっかりと調べた学生は一人しかいませんでした。その学生とは一位になった萬園華さんです。

調べることができるのは、言葉の意味だけではありません。中国人の日本語作文コンクールの一位以上の作品は中国語訳が公開されています。それらの優秀な作品の中国語訳を読むことによって作文の着眼点、構成など、

中国語で言うならば「写作思路」を調べ、学ぶことができるのです。過去の優秀作品の中国語訳はまさに貴重な学習の材料といえるでしょう。



悩んだ時には調べて、新しいことに触れて、また考えて悩んでください。その過程できっと新しい発見があるはずです。

五、先生を信頼しましょう

このコンクールの第十五回大会に私は五人の学生と参加しました。佳作になった万巨鳳さん、宋曉蕊さん、張慧怡さん、二位の蒯滢羽さん、一位の韓若氷さんの五人です。全員、授業で教えたことのある学生です。私がどんな考え方をする教師なのかをよく理解してくれていました。私もそれぞれの学生さんがどのようなタイプなのかを解っていたつもりです。特に一位になった韓さんは私の授業の課代表もやってくれました。そうした信頼感があったからこそ全員が入賞できたのだと思います。良い作文を完成させるということは時間と根気がいる作業であり、指導教師と学生のキャッチボールの繰り返しで少しずつ前に進んでいくのではないのでしょうか。皆さんが、心から先生を信頼して、素直な気持ちで先生のアドバイスをしっかりと聞くことが大切だと思います。その上で自分の意見が有ればきちんと先生に話しましょう。

ぜひ、皆さんに心から信頼できる、自分と相性の良い先生を見つけてほしいと思います。先生に対する信頼があつてこそ「真心話」の作文を書くことができるのです。

六、友達と励まし合いましょ

私は今年の二月に萬さんという学生に「中国人の日本語作文コンクールに参加しましょう」と声を掛けました。最初、萬さんは自信がなくてとても迷ったそうです。寮のルームメイトの張さんに相談してやっと挑戦してみる勇気が出ました。それから二人は励まし合いながら作文を書きました。そして今回、張愛佳さんは佳作賞、萬園華さんは大使賞になる事が出来たのです。作文と言うのは一人で取り組む孤独な作業です。時には壁にぶつかって、苦しみ悩むことがあるでしょう。そんな時に同じ目標に向かって進む友達がいることは本当に大きな励みになります。張愛佳さんは私に「萬さんと三年間一緒に暮らして、彼女の自立的で勤勉で、そして非常に謙虚な人格に深く影響を受けてきました。このような友達が出てきたのは幸せだと思っています。」というメッセージを送ってくれました。張さんは間もなく日本に留学します

が二人の友情はずっと続くことでしょう。友達と励まし合い作文コンクールに挑戦することはきっと皆さんに大学時代の素晴らしい思い出を提供してくれるはずです。

七、おわりに

文章を書くことは面倒で、苦しいことです。できることなら避けて通りたいものですが、書くことによつて見えてくること、解ってくる場合があります。考えて、悩んで、調べて、考えて、友達と話合つて、また考えて時間をかけて自分の納得のいく一本の作文が書けたら、それは大学時代の貴重な記念碑になるはずです。



川内浩一（かわうち こういち）
早稲田大学教育学部卒。大連外国語大学漢学院大学院修士課程修了。神奈川県立高校国語教師等を経て現職。日本語教師歴十二年。